



ほうらいまき えすずりばこ
蓬莱蒔絵硯箱

飯塚桃葉 江戸時代 18世紀
本館蔵 (カザールコレクション)

梨子地に高蒔絵で松竹、鶴亀の蓬莱図を表す。同一意匠の料紙箱と一対で伝わる豪華な作。秋元子爵家旧蔵品で、硯箱の蓋裏に記された「桃葉」の蒔絵銘から、18世紀後半に江戸で活躍した飯塚桃葉(初代)の作とわかる。

北魏 石造仏教彫刻の展開

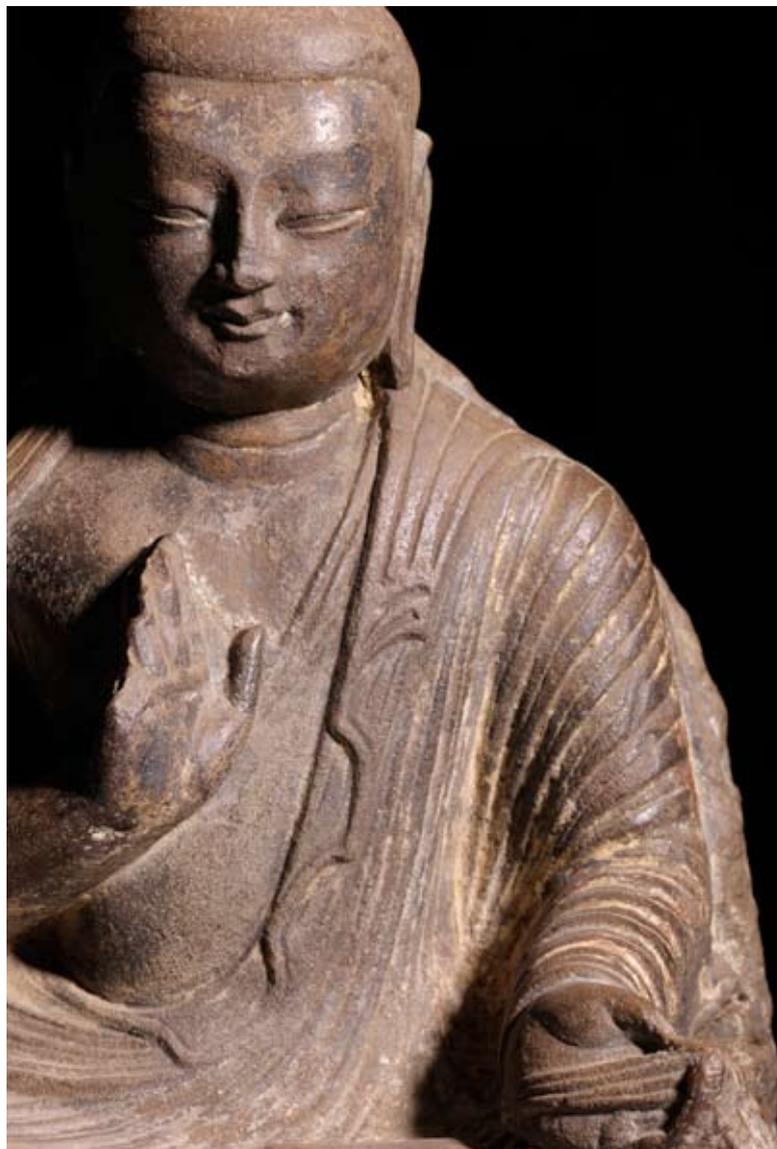
2013年9月7日(土)―10月20日(日)

大阪市立美術館は、世界有数の中国仏教・道教彫刻―山口コレクションを所蔵する美術館として、国内よりもむしろ海外で広く知られています。

「中央は明カニ古式ニシテ鳥仏師のものト毫モ異ナルコトナシ 北魏のものカ」

岡倉覚三(天心)は明治26年(1893)、中国を代表する石窟寺院のひとつ河南・龍門石窟を「発見」します。冒頭の言葉は、岡倉が龍門石窟を発見したその日の日記の記述です。岡倉が目にしたそれは、飛鳥時代の止利仏師・止利派仏像のルーツとしての北魏仏でした。これより120年間「北魏=飛鳥仏の源流」という定説のもと、現行の高校日本史の教科書もこれを踏襲しています。しかしこの定説は、そろそろ見直すべき時期を迎えているかもしれません。

本展覧会では、国内に収蔵される主要な優品と、山口コレクションをはじめとする館蔵作品を加えた、約60件により、北魏石造仏教彫刻の全体像を浮き彫りにします。ぜひご覧下さい。



如来坐像 北魏 天安元年(466) 本館蔵(山口コレクション)

関連イベント

9月21日(土)

特別講演会「中国古代寺院に迫る」

共催:京大文学部人文科学研究科

河北・山西の寺院址に関する最新の発掘成果をご紹介します。

1 「河北鄴城彭城仏寺と北呉莊仏像埋藏坑の発掘」

朱岩石氏(中国社会科学院考古研究所漢唐考古研究室主任)

2 「山西童子寺遺址の発掘」

李裕群氏(中国社会科学院考古研究所边疆民族与宗教考古研究室主任)

3 「太原市西山龍泉寺唐代仏塔基址・地宮の発掘と出土舍利荘嚴具」

常一民氏(山西省太原市考古研究所副所長)

10月5日(土)

講演会「北魏仏教造像概論―雲岡石窟を中心に―」

八木春生氏(筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)

10月12日(土)

講演会「北魏石造彫刻の地方性」

齋藤龍一(当館主任学芸員)

9月23日(月・祝)

レクチャーコンサート「古琴の調べ」

中国伝統楽器・古琴(七弦琴)の魅力をご紹介します。

演奏:山寺美紀子氏

(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科研究科研究員)

解説:山寺三知氏(國學院大學北海道短期大学部国文学科教授)

会場:大阪市立美術館 1F講演会室

時間:午後1時30分より

(講演会は90分、コンサートは60分を予定しています。)

定員:150名(先着順。当日午後1時より整理券を配布します。)

※参加無料ですが、本展の観覧券が必要です。



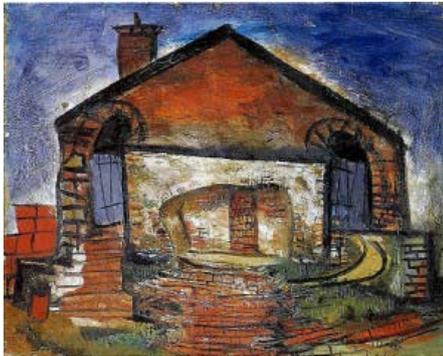
左 三尊像 北魏 6世紀前半 東京国立博物館

上 二仏並坐像 北魏 孝昌二年(526) 奈良・大和文華館

●特別展



1



2



3



4



5



6



7

◎記念講演会
11月9日(土)午後1時30分～3時
「ミュージアムとコレクション」
講師：養 豊氏(兵庫県立美術館館長・大阪
市立美術館名誉館長)

◎美術講座
11月2日(土)、10日(日)、17日(日)、
23日(土・祝)、24日(日)、30日(土)
午後1時30分～3時
大阪市の美術館・博物館学芸員による美術
講座を開催いたします。

場所：大阪市立美術館 講演会室
定員：150名(当日13時より整理券を配布。
先着順) 詳細はチラシ、ホームページをご覧
下さい。http://www.osaka-art-museum.jp/
sp_evt/osaka-shiho/

◎併設イベント
11月16日(土)
午後2時～3時
能に親しむコンサート「なにわの能物語を聞く」
定員：120名(当日13時より整理券を配布。
先着順)

1. 花卉図冊 惲寿平(1633～1690)
清時代 17世紀 本館蔵(阿部コレクション)

2. 大阪市指定文化財 煉瓦焼
佐伯祐三(1898～1928) 昭和3年(1928)
大阪新美術館建設準備室
(山本發次郎コレクション) ※後期展示

3. 交趾袖 大亀香合
明時代 17世紀 藤田美術館

4. 富士御神火文黒黄羅紗陣羽織
豊臣秀吉(1537～98)所用
桃山時代 16世紀 大阪城天守閣

5. 柳橋水車図(部分)
長谷川宗也(1590～1667)
桃山～江戸時代 17世紀
大阪歴史博物館(前田コレクション)

6. 青銅鍍金銀 仙人
後漢時代 1世紀 本館蔵(山口コレクション)

7. 重要文化財 青磁象嵌 童子宝相華唐草文水注
高麗時代 12～13世紀
大阪市立東洋陶磁美術館
(住友グループ寄贈 安宅コレクション)

再発見! 大阪の至宝

—コレクターたちが愛したたからもの—
2013年10月29日(火)—12月8日(日)

大坂(大阪)は政治や外交、交通や経済との関わりから、古くから人間と物産と金融の集積地でした。近代以降は経済界の実業家たちが、いろいろな「数寄」の道に足を踏み入れて多彩なコレクションを形成してきました。こうした大阪や関西のコレクションは、収集者の死後に散逸してしまったものが大半ですが、自らの収集品を市民共有の文化遺産と考え、次代への継承を意識するコレクターたちもいました。そうしたコレクションの受け皿となった

のが、国公立の美術館・博物館であり、コレクター自身を母体とした私立の美術館・博物館でした。大阪市立の美術館・博物館も、市民の情操の向上や学術の発展に寄与するために、寄贈や譲渡によって大型の個人コレクションを受け継ぎ、展覧会活動を充実させてきました。

本展は、大阪市立の美術館・博物館の美術作品が一堂に会します。加えて近代大阪のコレクターの収集を母体とした私立の美術館・博物館の代表的な作品と、

大阪市立美術館の寄託作品の一部も展覧し、美術品収集の軌跡をコレクターたちのまなざしとともに振り返る試みです。およそ160件の作品を「中国美術・韓国美術へのあこがれ」「日本美術の豊饒」「私立美術館に開花したコレクション」「大阪近代美術の諸相」の4章から構成して展覧することで、コレクションを育んだ大阪や関西の地域の感性を浮き彫りにしながら、大都市の欠かせない施設であるミュージアムとコレクションの関係を再考します。

〈北斎展余滴〉馬円とその門人たち

昨秋10月30日から12月9日にかけて、特別展「北斎—風景・美人・奇想—」が開催された。当然のことながら、北斎の多彩な魅力を多くの方々に楽しんでいただくことが一番の目的であったが、当館で開催する意義を考へて、大坂と北斎の関係について様々な角度から検証し、「特集 大坂と北斎」のコーナーを設けて紹介することにした。実際のところ、一般の鑑賞者の方々にどれほど興味を持っていただけたかはわからないが、担当学芸員としては、両者の意外な結びつきを知ることで、北斎をより身近に感じていただけたのではないかと考えている。

この特集では、大坂ゆかりの北斎の弟子たちについても紹介した。来坂した江戸の弟子たちや、大坂で活躍しながら北斎に入門した絵師たちなどである。ここではそれらの弟子のうち、大坂と北斎の関係について考えるうえで興味深い存在である、一峯斎馬円という絵師について注目してみたい。

馬円については不明なことが多く、生没年も明らかにされていないが、文化年間(1804~18)に読本などの版本挿絵を多く手掛けたことが知られている。先述の展示では、『伊達模様 和漢乃染分』という読本の挿絵を紹介するに止まったが、この他にも馬円は北斎譲りの緻密で劇的な挿絵を数多く残している。例えば、図1は『おさん茂兵衛 宗像暦』という読本で、筑紫長六が主君の仇である桂一家を滅ぼす場面の挿絵である。「千畳敷」と呼ばれる大広間で多くの人々が毒を盛られて苦しむ光景が、読本の小さな画面に所狭しと描かれている。かなり残酷な場面で申し訳ないが、多くの人々が入り乱れる複雑な場面を破綻なく細部まで描く、馬円の確かな腕前が十分に窺われる挿絵である。このように現代の我々の眼にも刺激的な挿絵は、波乱万丈な読本のストーリーを盛り上げるのに十分なものであったろう。

とりわけ馬円が興味深いのは、江戸で北斎に弟子入りしながら、ある時期に大坂へ移住し、大坂で活躍したと伝えられるところである。江戸の出来事や風俗などを記した『武江年表』においても、読本挿絵をよく描いた上方の絵師の一人としてその名前が挙げられている。馬円の作品を網羅的に調査したわけではないが、北斎の画風を基本としながらも、上方の役者絵のようにあくが強い個性的な面貌表現が見られる挿絵もあり、大坂へ移住した馬円が頑なに北斎の画風を守るのではなく、場合によっては上方の画風も柔軟に採り入れていた様子を窺うことができる。

さらに注目したいのは、馬円の弟子たちの存在である。図2は、先にも挙げた『おさん茂兵衛 宗像暦』という読本の口絵(目次)だが、その画面向かって左下には「馬圓門人寄合書」と記されている。これにより、馬円の弟子たちが描いた絵であることがわかり、画中のサインから「寄松」「子鈴」「鞍圓」という三人の弟子の名前も判明する。ちなみに、このうち寄松は俗称を菊多松兵衛といい、『戌年 俄



図1 馬円画『おさん茂兵衛 宗像暦』巻之三 挿絵 国立国会図書館蔵



図2 馬円門人寄合書『おさん茂兵衛 宗像暦』巻之一 口絵 国立国会図書館蔵

選』という俄狂言集に馬円との寄合書の挿絵を二点描いている。また、同じく『おさん茂兵衛 宗像暦』巻之三には、画中画の襖絵に「馬圓社中 胡夕画」と記された挿絵もあり、「胡夕」という弟子がいたこともわかる。つまり、一つの読本から四人の弟子の存在が確認できるわけである。馬円にはこの他に弟子がいたことも指摘されており、複数の弟子を抱えるほどの人気絵師だったことが理解される。

このように大坂で人気を博した馬円だが、残念ながら現在にまで伝わる情報はわずかであり、今後の課題とすべきことも多い。馬円と同じ「一峯斎」を名乗り、大坂で文政から天保頃に活躍したと考えられる狩野派の絵師との関係もその一つである。両者が同一人物と考えるのは難しいが、何らかの関係がある可能性も捨てきれないだろう。以上、かなりマニアックな話になってしまい恐縮だが、馬円やその弟子たちについて明らかにすることは、北斎と大坂のつながりについて知るうえでも大きなヒントを与えてくれるのではないかと考えている。

(秋田達也)

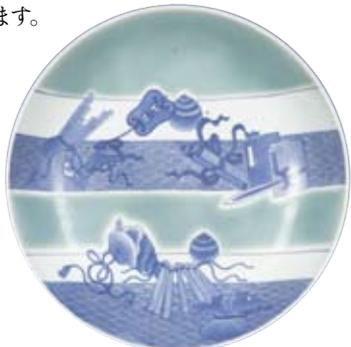
●コレクション展

吉祥の意匠

2013年12月21日(土)―12月27日(金)

2014年1月5日(日)―2月11日(火・祝)

松竹梅、鶴亀、七福神、宝尽くしなどの意匠は日本の吉祥図案として知られています。今回の展示では、お正月の時期にあわせて日本・中国・朝鮮半島の陶磁器・漆器などに描かれた吉祥図案をご紹介します。



青磁染付 青海波宝尽くし文皿 鍋島焼・盛期鍋島
江戸時代 18世紀初期 本館蔵(田原コレクション)

明末清初

―動乱期を生きた文人たち―

2014年1月10日(金)―2月11日(火・祝)

1644年の甲申の変により270年余り続いた明王朝は崩壊、満州族の清王朝による支配が確立します。この政治的・社会的・民族的動乱期の前後には、江南を中心に発達した都市それぞれに独特の書画が生まれ、文人たちは個性あふれる作品を作りだしました。



黄道周(1585-1646) 松石図 明時代 17世紀
本館蔵(阿部コレクション)

仙人十色―ユニークな仙人たち―

2014年1月10日(金)―2月11日(火・祝)

世俗を離れて山中に住み、不老不死の法を修め、神変自在の術を得た仙人。そのユニークな姿は、日本でもしばしば絵画化されてきました。近世から近代の絵師が描いた仙人たちをご紹介します。



森川曾文(1847-1902) 蝦蟇仙人図
明治 19世紀後半 本館蔵(高津満氏寄贈)

大阪の南画

―近世から現代まで―

2014年1月10日(金)―2月11日(火・祝)

大阪では、18世紀中頃から福原五岳や岡田米山人ら個性豊かな絵師が活躍し、近代に入っても矢野橋村や水田竹圃らが独自の南画を発表しました。大阪で花開いた南画の世界をご紹介します。



水田竹圃(1883-1958) 幽谷早春
昭和18年(1943) 本館蔵(住友コレクション)



三代永徳齋(1865-1941) 男雛・女雛
昭和 20世紀前半 個人蔵

おひな様をかざる

―丸平と永徳齋―

2014年2月22日(土)―3月23日(日)

3月3日は上巳の節句にあたり、雛人形をかざり女の子の成長を祈ります。雛祭りの季節にあわせて、京都の「丸平」大木平蔵、東京の永徳齋という東西の名匠による明治末～昭和初期に製作された雛人形を陳列いたします。



色絵 毘沙門亀甲桐文皿 鍋島焼・盛期鍋島 江戸時代
17末-18世紀初期 本館蔵(田原コレクション)

色鍋島・藍鍋島

2014年2月22日(土)―3月23日(日)

鍋島藩窯の収集品である田原コレクションから、初期鍋島・盛期鍋島・後期鍋島の色絵と染付・青磁を展覧します。鍋島焼は、徳川幕府や有力な諸大名・公家への贈答品として、鍋島藩が採算を考えずに特別な窯で焼造した陶磁器です。和様の意匠による精緻な名品の数々をお楽しみ下さい。

ちいさな蒔絵

2014年2月22日(土)―3月23日(日)

香合・香箱・菓子器など、愛らしい小さな器には動物や楽器の形を象ったものもあります。蒔絵の小さな器は海外でも好まれ、江戸時代から輸出されていました。カザールコレクションを中心に蒔絵の小品を展示いたします。



蒔絵螺鈿 琵琶形香合
明治 19世紀
本館蔵
(カザールコレクション)

近代の美術―日本画と陶磁器―

2014年2月22日(土)―3月23日(日)

昭和11年の開館以来、購入だけでなく、多くの方々からの寄贈や寄託により、近代美術の優品が収蔵されてきました。それらのうち、関西で活躍した日本画家と陶芸家の作品を中心にご紹介します。



谷口香橋(1864-1915) 淀君 明治 個人蔵

●特集展示

根付と装身具

2013年9月7日(土)―10月14日(月・祝)

スイス人、U.A.カザールが蒐集した当館の根付、印籠は海外流出を免れた貴重なコレクションです。今回の展示では根付けを中心に、印籠・煙管筒・櫛・笄・簪などの江戸時代の装身具と小袖などを展示いたします。



根付 舌切雀 悪いおばさんの葛籠 定興銘
江戸～明治時代 19世紀
本館蔵(カザールコレクション)



紅染三友時絵 櫛
江戸時代 19世紀 本館蔵(カザールコレクション)

古代イタリアの陶器と
コプト染織・彫刻

2014年1月5日(日)―2月11日(火・祝)

エトルリアをはじめとする古代イタリアで作られた陶器と、エジプトのコプト教徒(キリスト教)による染織・彫刻を中心に展覧します。前者はイタリア国立ルイジ・ピゴリーニ先史民俗博物館との交換寄贈品が中心です。



ブツケロ陶器 アンフォラ型壺
ラティウムまたは南エトルリア出土 紀元前6世紀
本館蔵(ルイジ・ピゴリーニ先史民俗博物館寄贈)



人物動物丸文綴織衣服残片 コプト 8世紀
本館蔵



木造 飛天像
平安時代 12世紀
本館蔵(田万コレクション)

とおくてちかい ―仏教美術―

2014年1月10日(金)―2月11日(火・祝)

仏がまします浄土は、現世と隔絶した彼方の聖なる世界。弥勒の住む浄土を描いた兜率天曼荼羅図、雲間をたどる飛天像。まだ見ぬ仏国土の諸尊と情景を表した絵画・彫刻・工芸を通じて、人々が抱き続けた往生への憧憬を追体験しませんか。



重要文化財 兜率天曼荼羅図(部分)
鎌倉時代 13世紀 大阪・延命寺蔵

展覧会スケジュール 2013年9月―2013年10月

□ は休室

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
特別展 特別陳列																															
コレクション展 特集展示																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展 特別陳列																															
コレクション展 特集展示																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

2013年11月―2014年3月

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
特別展 特別陳列																															
コレクション展 特集展示																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展 特別陳列																															
コレクション展 特集展示																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展 特別陳列																															
コレクション展 特集展示																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
特別展 特別陳列																														
コレクション展 特集展示																														
美術団体展 (地下展覧会室)																														

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展 特別陳列																															
コレクション展 特集展示																															
美術団体展 (地下展覧会室)																															

大阪市立美術館・その他事業のご案内

美術研究所

昭和21年に創設され、公立施設としては他に類をみないユニークな専門教育機関としてスタートしました。素描・絵画・彫塑の実技研究の事業を行っています。入所者はまず石膏素描前期からスタートし、年6回ある実技コンクールに合格した者が石膏素描後期、人体素描、絵画、彫塑へ順次進級していきます。

入所検定は、入所希望者に対して年4回(4月、7月、10月、1月)実施します。入所検定申込書をご希望の方は、90円切手を貼った封筒(長形3号)を同封し、入所検定申込書希望とお書き添えの上、大阪市立美術館「美術研究所」宛にお送りください。

◎入所検定:「入所検定申込書」に検定料3,600円を添えて検定実施当日にご持参ください。可否の結果は、別途郵送にて通知します。検定要領は大阪市立美術館「美術研究所」までお問い合わせください。tel. 06-6771-4874

◎入所料: 5,400円

入所時には入所料と研究料(3ヵ月分)合計26,400円を全納してください。

◎研究料: 月額研究料(石膏前・後期・絵画7,000円/人体・彫塑11,000円)

毎月の研究料は前月末までに納付してください。

◎平成25年度入所検定予定日:平成25年9月27日(金)、平成26年1月17日(金)

友の会

◎随時会員募集中!

“FINE ARTの世界へご案内します”

友の会では、日曜日に石膏、裸婦、人物コスチューム、静物の日曜洋画会(絵画等の制作)を開催しています。料金は一日当たり、石膏デッサン800円、人体モデル・静物1,500円のチケット制(5枚綴り・バラ売り不可)で、別途モデル料が必要です。

◎年会費: 一般4,000円/学生3,000円

◎特典: 大阪市立美術館での展覧会鑑賞の優待だけでなく、美術館展覧会に関する情報満載の「友の会ニュース」を配送しています。まず、友の会で活動されてから美術研究所に入所されてはいかがでしょうか。

◎お問合せ: tel./fax. 06-6779-9288

e-mail: tomonokai@osaka-art-museum.jp

図録販売

主な館蔵品図録

「住友コレクションの近代日本画」 2004年 700円

「中国彫刻 小野順造コレクション」 2005年 1,700円

「大阪市立美術館所蔵作品選 70周年」 2006年 2,500円

「富本憲吉の世界」 2010年 1,300円

「壺のなかの小さな世界」 2013年 1,300円 ……ほか

過去に開催された特別展の図録を中心に販売しています。美術館開館中は、来館者向けに美術館1階のミュージアムショップで販売しております。なお、希望者には宅配も受け付けています。宅配を希望される方は、購入希望の図録名と図録の代金・梱包料(専用箱代)を現金書留にて美術館あてに郵送してください。確認出来ましたら、着払いにて図録を送付致します。現金書留にて郵送いただく前に、お手数ですが、必ず美術館あてに在庫についてお問い合わせください。

◎問合せ・宛先: tel. 06-6771-4874 大阪市立美術館総務課

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 大阪市立美術館

●特別陳列 観覧料

一般500円(団体400円)、高大生400円(団体300円)

●コレクション展 観覧料(特集展示を含む)

一般300円(団体150円)、高大生200円(団体100円)

中学生以下・障がい者手帳等をお持ちの方は無料。団体料金は20名以上。

※大阪市内在住の65歳以上の方はコレクション展・特別陳列は無料(要証明)

※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。

※平成25年度より平常展はコレクション展という名称に変わりました。

●休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日)、展示替え期間、年末年始。災害などにより臨時で休館となる場合があります。

●開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)



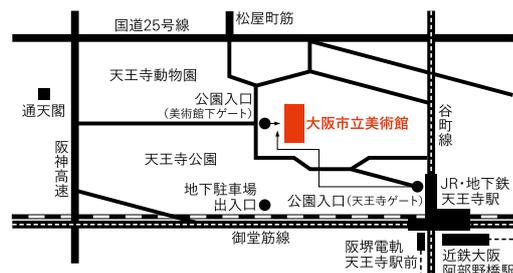
大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

http://www.osaka-art-museum.jp



交通案内: 地下鉄御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または市バス「あへの橋」下車、北西へ400m